

琵琶物語

ろっそく能

Biwa Monogatari
Rosokunoh

平成21年7月20日(祝・海の日)
水道橋・宝生能楽堂

〔昼の部〕 琵琶物語

能 経正 (つねまさ)

平経正は琵琶の名手で、京都・仁和寺の守覚法親王に少年のころより寵愛されていたが、一の谷の源平合戦で討たれてしまう。親王は彼に生前預けたことのある青山^{せいで}という銘の琵琶の名器を仏前に供え、回向するよう、行慶僧都(ワキ)に命ずる。行慶が管弦講^{かげんこう}をして法事を行うと、夜更けに経正の亡霊(シテ)が現れ、琵琶を懐かしんで弾き夜遊の舞を舞うが、それもつかの間、修羅道での苦しみに襲われる自分の姿を恥じ暗闇に消えてゆく。修羅能ながらも、優雅な平家の公達らしく、死後も過去の芸術生活を慕って現れる、優美で情緒深い曲である。

狂言 伯養 (はくよう)

座頭の伯養(アド)が、近く師匠が都の「涼み」(旧暦六月に琵琶をはじめて行った納涼法会)に行くが、琵琶が壊れているので、良い琵琶を持つている檀那(アド)のところへ借りに行く。そこへ勾當(盲人の官位/シテ)も琵琶を借りにくる。伯養が先に借りる約束をしたのだが、勾當は官位が高いことを笠に着て無理にでも借りようとし、喧嘩になる。主人は困った挙句、目の見えぬ一人に相撲をとらせる。

能 玄象 (げんじょう)

琵琶の名手である太政大臣藤原師長(主ツレ)は、唐に渡つて奥義を究めようと須磨の浦までやつて来る。一夜の宿を借りた塩屋の主の望みで師長が一曲弾いていると村雨が降つてきて、老夫婦が板屋を葺いて適切に調子を整える。音曲に嗜みがある者とみて、師長が一曲所望すると、翁(前シテ)は琵琶、姥(前ツレ)は琴で、越天楽を見事に奏する。師長は恥じて帰ろうとするが、夫婦はこれをひきとめ、自分達は村上天皇と梨壺女御の霊で、師長の入唐を止めるために現われたと言つて一旦姿を消す。やがて村上天皇の霊(後シテ)が神々しく現れ、龍神(後ツレ)に命じて竜宮に持ち去られた名器・獅子丸の琵琶を取り寄せ、師長に授ける。自らも興に乗じて舞を舞い、師長は賜った琵琶を携えて帰洛する。登場人物も多く、見どころにあふれた爽快な曲。

〔夕方の部〕 ろっそく能

狂言 清水 (しみず)

主人(アド)より、水汲みを命じられた太郎冠者(シテ)は面倒なので、清水で鬼に襲われたと言つて帰ってくる。主人は太郎冠者が置いてきた水桶を惜しがり、自ら清水へ行くと言い出す。嘘がばれないように太郎冠者は鬼に扮して、太郎冠者の待遇改善を要求するが…。

能 紅葉狩 (もみじがり)

錦秋絢爛たる信州戸隠の山に現われ、紅葉狩の宴をする高貴な美女たち(前シテ・前ツレ)。鹿狩りにきた武勇の誉れ高い平維茂(ワキ)も、その魅力に逆らえず、誘われるまま酒肴に与かり、いつしか酔つて寝入ってしまう。しかし、それこそが罠。八幡宮の末社の神(アイ)が維茂の夢に現れ、女はこの山の鬼だと教える。やがて現われた鬼女たち(後シテ・後ツレ)に、維茂は南無八幡大菩薩と祈念して格闘し、ついに鬼女を退治する。きらびやかな宴会から死闘への対照的で巧みなシーン転換、「鬼揃」の小書による大勢の鬼女たちのスペクタクル的な舞台を、蠟燭の灯りでお楽しみいただきます。

〜紅葉狩の宴会を一緒に〜

当日はロビーにてウーヴ・クリコシャンパーニュ(ウーヴ・クリコジャパン)の販売を予定しています。
(未成年およびお車でこ来場の方にはご提供できません。)



野村萬斎 山本泰太郎 森 常好 殿田謙吉 村瀬 純 観世清和



観世喜正 観世元伯 柿原弘和 観世新九郎 一噌隆之

神遊

昼の部 琵琶物語

午後1時30分開演 / 午後12時30分開場 (終演予定午後4時頃)

能 経正

シテ(平経正の霊) 観世 清和
ワキ(行慶僧都) 村瀬 純
替之型

大鼓 柿原 弘和
小鼓 観世新九郎
笛 一噌 隆之

後見 上田 公威
武田 尚浩

地謡 林宗一郎
谷本 健吾
坂 真太郎
奥川 恒治
関根 祥人
藤波 重彦

狂言 伯養

シテ(勾當) 山本泰太郎

アド(伯養) 山本 則孝
アド(貸手) 山本 則直

ツレ(藤原師長) 藤波 重彦
後ツレ(龍神) 小島 英明
前ツレ(姥) 古川 充
前シテ(老翁) 観世 喜正
後シテ(村上天皇の霊)

能 玄象

ワキ(従者) 殿田 謙吉
ワキツレ(従者) 則久 英志
替之型
早装束
早装束 御厨 誠吾

後見 奥川 恒治
長沼 範夫

地謡 坂口 貴信
桑田 貴志
佐久間 二郎
鈴木 啓吾
上田 公威
関根 祥人
観世 清和
浅見 重好

夕方の部 ろっそく能

午後6時30分開演 / 午後5時30分開場 (終演予定午後8時15分頃)

解説・神遊

狂言 清水

シテ(太郎冠者) 野村 萬斎
アド(主人) 野村万之介

後見 時田 光洋

火入れ

能 紅葉狩

前ツレ(侍女) 後ツレ(鬼女) 遠藤 喜久
前ツレ(侍女) 後ツレ(鬼女) 鈴木 啓吾
前ツレ(侍女) 後ツレ(鬼女) 奥川 恒治
前シテ(上臈) 観世 喜正
後シテ(鬼人)

大鼓 柿原 弘和
小鼓 観世新九郎
太鼓 観世 元伯
笛 一噌 隆之

鬼揃
ワキ(平維茂) 森 常好
ワキツレ(従者) 館田 善博
ワキツレ(従者) 森 常太郎

問(供の女) 破石 晋照
問(末社の神) 竹山 悠樹

後見 弘田 裕一
駒瀬 直也

地謡 谷本 健吾
坂 真太郎
桑田 貴志
古川 充
佐久間 二郎

全席指定

〔昼の部〕
S 正面席 10000円 / A 正面席 8500円
B 脇正面席 7000円 / C 中正面席 5000円
〔夕方の部〕
S 正面席 8500円 / A 正面席 7000円
B 脇正面席 5000円 / C 中正面席 4000円

※学生券(席数限定)
昼の部 3000円・夕方の部 2000円
※未就学児童入場不可

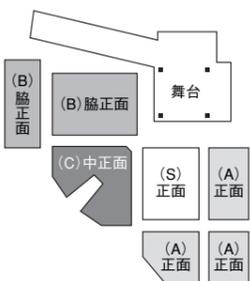
ご予約開始 5月15日(金)

(注)神遊会員の方は先行予約と会員割引があります

お問合せ・お申込み

神遊事務局 03-5227-1830 (TEL・FAX)
mail@kaniyasobi.com http://www.kaniyasobi.com
電子チケットぴあ 05700-029999
(Pコード 394677)
@ぴあ http://t.pia.co.jp/

主催 神遊



JR線水道橋駅(東口)都営地下鉄三田線水道橋駅(A1出口)
東京都文京区本郷1-5-9 TEL.03-3811-4843(代)